

精神障害者の生活支援システム

問題 73 「障害者白書(平成 25 年)」(内閣府)における外来の精神障害者の現状に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 65 歳以上の者の割合を 2005 年(平成 17 年)と 2011 年(平成 23 年)と比較すると、約 5 %減少している。
- 2 精神科初診時の年齢は、いずれの疾患の場合でも、20 歳未満が 40 %を超えている。
- 3 疾患別構成割合では、統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害のある者の割合が 30 %を超えている。
- 4 障害年金受給者は約 25 %であるが、統合失調症のある者では 40%を超えている。
- 5 一人暮らしをしている者は約 50 %で、家族と同居している者を上回っている。

問題 74 統合失調症のため約 8 年間入院していた精神科病院を退院した L さん(62 歳、男性)は、身寄りもなく、持家で単身生活を始めて 6 か月が経過した。生活費は毎月の障害年金と預貯金(約 350 万円)で賄っている。最近、L さんは、多少物忘れがみられるようになり、判断能力も徐々に低下し、金銭管理の面でも支障が出るようになってきた。つい先日も、通帳と印鑑の保管場所を忘れて、生活費を銀行から引き出すことができなくなってしまった。

次のうち、現時点で L さんが利用するにふさわしい制度として、適切なものを 1 つ選びなさい。

- 1 成年後見制度
- 2 生活福祉資金貸付制度
- 3 日常生活自立支援事業
- 4 意思疎通支援事業
- 5 精神障害者アウトリーチ推進事業

問題 75 住宅入居等支援事業(居住サポート事業)に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 実施主体は、都道府県が原則である。
- 2 「住宅セーフティネット法」に位置づけられた事業である。
- 3 夜間を除き、日中に必要な支援を実施する。
- 4 利用期間については、期限を設けてはならないとしている。
- 5 本人と家主等との入居契約の手続支援を行う。

(注) 「住宅セーフティネット法」とは、「住宅確保要配慮者に対する賃貸住宅の供給の促進に関する法律」のことである。

問題 76 「平成 24 年障害者雇用状況の集計結果」(厚生労働省)に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 民間企業において雇用されている障害者の数は、2011年(平成23年)と比較してみると、減少した。
- 2 民間企業において雇用されている障害者の数を2011年(平成23年)と比較してみると、障害種別のうち、精神障害者の増加率が最も大きかった。
- 3 特例子会社に雇用されている障害者の数をみると、障害種別のうち、精神障害者が最も多く占めていた。
- 4 雇用されている障害者の数を、企業規模別に2011年(平成23年)と比較してみると、300人未満の企業で減少した。
- 5 障害者を1人も雇用していない企業が、法定雇用率の未達成企業に占める割合は、10%程度となっていた。

問題 77 福祉系大学で精神保健福祉を学び、精神保健福祉士の資格を取得したMさんは、卒業後、郷里のQ県に採用された行政職員である。Mさんは、県民のために学んだ知識や技術をいかしたいと願っていたところ、「精神保健福祉法」に基づく総合的な技術中核機関への配属となった。

次のうち、Mさんが勤務することになった機関として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 保健所
- 2 地域活動支援センター
- 3 基幹相談支援センター
- 4 精神保健福祉センター
- 5 精神障害者社会復帰促進センター

(注) 「精神保健福祉法」とは、「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」のことである。

(精神障害者の生活支援システム・事例問題)

次の事例を読んで、問題 78 から問題 80 までについて答えなさい。

〔事例〕

人口 5 万人の R 市の障害福祉課に勤務する N 精神保健福祉士は、民生委員から、A さん(35 歳、男性)の訪問に同行してもらえないかとの依頼を受けた。理由を尋ねると近くのアパートの家主から、「設備点検で A さんの部屋を訪ねたところ、真っ暗な部屋にいたので心配になった」と相談された。すぐに A さんを訪問して困りごとを尋ねたが、「眠れない」と言った後は沈黙が続いた。最後に N 精神保健福祉士のことを話すと「会ってもいい」と言っていたとのことであった。

翌日、民生委員と同行訪問したところ、A さんは次のように話した。「家族はもういない。19 歳のときに統合失調症の診断を受けて以来、片道約 2 時間の Y 病院に通院している。障害年金と親が残した預金でやりくりしてきたが、残額が 3 万円になり、電気代の支払いも滞っている。とても不安だ。交通費がかかるので、次の受診をどうしようか迷っている」。(問題 78)

このことがきっかけとなって、A さんは時々、N 精神保健福祉士に電話をかけてくるようになった。数か月後、A さんから「近所が騒がしくて困る」と電話があり訪問したところ、大変な暑さの中、耳を覆う形のヘッドフォンを装着していた。しかし、音楽プレーヤー等には接続しておらず、それを問うと「他の部屋がうるさいんですよ。でも言いに行くといけないからね。これするとましなんです」とヘッドフォンを指した。じっくりと A さんの話を聞くと、1 週間ほど、ほとんど睡眠がとれておらず、「前に一度入院したことがある Y 病院に入院したい」と言った。そして部屋は静かであるのに、「ほら、あれです。やかましいでしょ」と何度も言った。(問題 79)

今から受診が可能か Y 病院に電話をしようと N 精神保健福祉士が A さんの部屋を出ると、隣室に住んでいる女性に呼び止められてこう言われた。「その人、大丈夫なんですか。いつもコードを垂らしたヘッドフォンつけて、ブツブツ言われてますよ」。N 精神保健福祉士は、A さんの病気のことやご近所に配慮を相当していることを、女性にこの場で話をして理解を得たいと考えたが、それは思いとどまった。(問題 80)

問題 78 次のうち、この時点でN精神保健福祉士が同行する機関等として、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 保健所
- 2 精神保健福祉センター
- 3 福祉事務所
- 4 公共職業安定所(ハローワーク)
- 5 指定特定相談支援事業所

問題 79 次の記述のうち、Aさんが入院することになった場合、その入院に関する説明として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 Aさんの入院期間は、72時間を超えない範囲に限られている。
- 2 Aさんが退院を申し出た場合であっても、48時間を限度に退院させないことができる。
- 3 入院に当たっては、1名の精神保健指定医が診察する必要がある。
- 4 退院等の請求に関することを、書面でAさんに知らせる。
- 5 入院に当たっては、2名以上の精神保健指定医が診察する必要がある。

問題 80 次のうち、N精神保健福祉士が思いとどまった法的根拠として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 地域保健法
- 2 地方公務員法
- 3 障害者基本法
- 4 精神保健福祉法
- 5 障害者総合支援法

(注) 「障害者総合支援法」とは、「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」のことである。